

令和 8（2026）年 7 月 15 日
晴れの国おかやま観光キャンペーン推進協議会
（観光課）

おかやまハレいろキャンペーン 2026 について

大阪・関西万博等を契機とした誘客拡大の流れをしっかりと持続させ、その効果を県内全域に波及させていくとともに、来年秋に開催される「森の芸術祭 晴れの国・岡山」2027 を見据えて、更なる誘客を目指し、全県的な観光キャンペーンを開催します。

1 キャンペーン期間

令和 8 年 9 月 5 日（土）～11 月 30 日（月）

2 実施主体

晴れの国おかやま観光キャンペーン推進協議会
（県、観光関係団体、事業者など 42 団体）

3 キャッチフレーズ等

「こころ晴ればれ おかやまの旅」



4 期間中の主な企画

（1）アートに関する企画

- ・ 「森の芸術祭 晴れの国・岡山」2027 の先行発表作品である「プロトピア行き列車」（※）の運行と、オリジナルイメージを重ね押しで完成させるスタンプラリー（列車・スタンプのいずれもデザインは蜷川実花氏による）

（※）詳細は別添参照

- ・ 新見を舞台に展開するアートイベント
「mt project 新見」
- ・ 産業技術をアートの視点で再解釈する「瀬戸内産業芸術祭」
- ・ 吹屋をモチーフにしたアート作品の展示及びワークショップを行う
「吹屋アート展」



mt project イメージ

(2) 食に関する企画

- ・ 衆楽園で津山の牛肉料理とアートの饗宴を楽しむディナーイベント「幻想的な庭園で津山の食文化を味わう特別な夜」
- ・ ぶどうの食べ比べやぶどうづくりのフレンチを堪能できる「ぶどう畑のレストラン」
- ・ 観光列車で特別な食事とワインのマリアージュ体験「『La Malle de Bois』
ワイン列車で行く新見ツアー」
- ・ 香川県と連携した大型食イベント「“岡山×香川”つながる食の大博覧会」



牛肉料理イメージ

(3) 岡山の夜を楽しむ企画

- ・ 星の解説を聞きながらワインと音楽を楽しむ「蒜山スターウォッチングーWine×Musicー」
- ・ 岡山後楽園での「秋の幻想庭園」、岡山城での「秋の鳥城灯源郷」



秋の幻想庭園イメージ

(4) 歴史・文化に関する企画

- ・ 伝統工芸の新たな担い手となった米国出身の木工作家による漆塗り体験等のワークショップ「漆の雫 蒜山郷原漆器体験ツアー」
- ・ 桃太郎伝説が生まれた吉備路エリアを巡る「吉備ロマン無料循環バス」



吉備路エリアイメージ

(5) その他

- ・ 岡山県内のアート・観光スポットを周遊する「おかやまハレたび WESTER スタンプラリー」
- ・ サイクリングロードを巡る「ハレいろ・サイクリング OKAYAMA フォトコンテスト 2026」
- ・ 人気声優の音声ガイドで天文施設を巡る「天文王国おかやま 声優コラボレーション」
- ・ 観光列車「SAKU美SAKU楽」・「La Malle de Bois」の運行



ハレいろ・サイクリング OKAYAMA
フォトコンテスト 2026 イメージ



観光列車「SAKU美SAKU楽」



観光列車「La Malle de Bois」

5 主なプロモーション

- ・キャンペーン専用ガイドブックの配布やポスターの掲出
- ・岡山観光 WEB でのイベントや特別企画の紹介
- ・JR 大阪駅や県内外の観光イベント等でのキャンペーン PR の実施
- ・SNS 等インターネットを活用した広告展開
- ・県、JR 西日本等の各種広告媒体の活用

6 今後の主な予定

9 月 5 日（土）、9 月 6 日（日） キャンペーンオープニングイベント
（会場：JR 大阪駅アトリウム広場）

プロトピア行き列車 蜷川実花 with EiM

蜷川実花 with EiM による「プロトピア行き列車」は、2027 年秋に開催する「森の芸術祭 晴れの国・岡山」2027 に先駆けて発表される先行発表作品です。

緑豊かな風景の中を走る津山線を舞台に、鮮やかな花々に彩られた華やかな列車が、新たな景色を生み出します。コラージュされた写真の中には、県北で撮影されたものも取り入れられています。列車は走ることで、周囲の風景と響き合い、その表情を変化させます。

本作は完成形ではなく、2027 年秋に新たな展開を経て完成を迎える予定です。芸術祭の開催に向けて進化していく過程そのものも、大きな魅力の一つです。



※写真はイメージです

運行区間：津山線（岡山駅～津山駅）、姫新線（津山駅～中国勝山駅）

※車両運用上の都合により、急遽変更となる場合があります。

運行開始：（予定）2026 年 10 月 10 日～

運賃：通常運賃と同額

※ 蜷川実花 with EiM

写真家、映画監督、現代美術家。

写真を中心として、映画、映像、空間表現も多く手掛ける。

木村伊兵衛写真賞ほか数々受賞。映画監督としてこれまでに「ヘルタースケルター」（2012 年）など 5 本の長編映画を監督。近年は蜷川実花 with EiM として、クリエイティブチーム「EiM（エイム）」とともに大規模なインスタレーションを手掛けるなど、表現の幅を広げている。

これまでに写真集 120 冊以上を刊行、個展 150 回以上、グループ展を 130 回以上と国内外で精力的に作品発表を続ける。



※ EiM(エイム)[Eternity in a Moment]

科学者・アーティスティックディレクターの宮田裕章、プロダクションデザイナーの ENZO、クリエイティブディレクターの桑名功、照明監督の上野甲子朗らで結成されたクリエイティブチーム。プロジェクトごとに多様なチームを編成しながら活動する。

主な作品発表に、「胡蝶の旅 Embracing Lights」安比 Art Project(2022 年)、イマーシブシアター「花宵の大茶会」北野天満宮（2026）など。

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」2024 では蜷川実花 with EiM として新見市の満奇洞で《深淵に宿る、彼岸の夢》を発表した。